

食道がんにおける免疫関連分子の発現解析

作成日 2024 年 3 月 5 日 第 1.3 版

1. 研究の対象

2002 年 1 月 1 日～2019 年 7 月 9 日に国立がん研究センターにおいて食道扁平上皮癌に対する手術を受けられた患者さんを対象としています。

2. 研究目的・方法

研究の背景・意義：

食道癌には主に扁平上皮癌と腺癌の二つのタイプが含まれます。欧米では食道癌の半数以上を腺癌が占めますが、日本ではその 90%程度は扁平上皮癌です。

現在、進行食道扁平上皮癌に対しては手術療法、放射線療法および化学療法が行われ、近年の集学的治療の進歩に伴いその治療成績は向上しつつありますが、進行癌に関する治療成績はさらなる改善が望まれる状況です。本研究では食道癌組織において免疫関連分子の発現を検索し、新たな免疫治療の標的・治療効果予測因子となりうるマーカーの同定を目指します。

解析の方法：

生検および手術によって得られた食道扁平上皮癌の組織で、診断の後に余剰となった試料を用いて、免疫組織化学染色や in situ hybridization 法を用いて、免疫関連分子の発現を解析します。研究実施期間は、研究許可日から 5 年間とします。ただし、研究の進行状況等により延長する場合があります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、既往歴、病理検体番号、病名、病理診断、病歴、化学療法の治療歴等

試料：手術や生検で摘出し、病理診断後に余剰となった腫瘍組織、非腫瘍組織

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関への情報・試料の提供は個人識別情報を削除し、匿名化番号を付した状態で行います。対応表は当センターの研究責任者が保管・管理します。本研究では解析の一部を共同研究機関であるアストラゼネカ社（米国・日本）にお

いて行うため、匿名化を行った後に病理診断後の余剰検体(パラフィン包埋標本)および臨床情報の提供を行います。

5. 研究組織

国立がん研究センター中央病院 加藤 健

アストラゼネカ社 (米国) Rakesh Kumar

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの 代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先まで お申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先および研究責任者/研究代

表者

加藤 健

国立がん研究センター中央病院 頭頸部・食道内科

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL: (03)3542-2511、FAX: 03-3542-3815